

# ふるさと奥尻通信

令和4年2月1日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

北前船とは、当時「弁財」と呼ばれた和船を利用した関西と蝦夷地を結んだ交易船で、時に利ざやで莫大な収益を上げた。全国各地に寄港し、結果的に様々な文物を残していった。

## 特集 奥尻島内における北前船寄港の名残り

北海道(当時:蝦夷地)と本州を結んで交易したことで有名な北前船(弁財船)ですが、対岸にあつて集積地として栄えた江差に比べて、奥尻島にはその痕跡が少なく、明確な物証が見つけない現状にありました。それでも、少ないながらもいくつか発見されていますのでご紹介します。

### ●弁天岬と宮津弁天宮

・所在地:奥尻郡奥尻町字宮津83番地

・所有者:宮津町内会

文政年間(1818~1829)に、宮津地区の漁民の手によって境内と社殿が創設され、海上安全と豊漁を祈願して弁財天が祀られました。その後、広島の大島神社より宗像三女神が祀られ、以降は中津嶋神社とも呼ばれます。神社が立つ弁天岬には、9世紀頃のオホーツク文化の遺跡や、16~17世紀頃のアイヌの砦や祭祀の場であるチャシが築かれていたと考えられ、遺跡として登録されています。安政年間(1855~1860)の地図には、岩に沿って弁財船2隻くらいが繫留できると書かれており、日本海を往来する船が風待ち等で寄港したことが推測されます。



弁天岬と対岸(北海道本島)を望む



昭和初期頃の弁天岬と茶津(宮津)集落 北から望む



旧高田商店前の錨

### ●北前船の錨①

・所在地:奥尻町字奥尻36番地 旧高田商店角

・所有者:高田芳明氏

長い間、奥尻島青苗沖の海底に沈んでいましたが、平成5年の地震の後に引き上げてもらったもの。しばらくは青苗灯台の横に置いてありましたが、後に現在地へ移動、整備の上で公開されています。江戸時代から明治中期に青苗地区に寄港していた北前船等の錨と思われ、停泊中か航行中に回収できなくなり放置されたものと思われます。四爪錨と呼ばれるもので、和船で使用された一般的なものです。



稲穂ふれあい研修センター前の錨

### ●北前船の錨②

・所在地:奥尻郡奥尻町字稲穂162番地

・所有者:奥尻町教育委員会

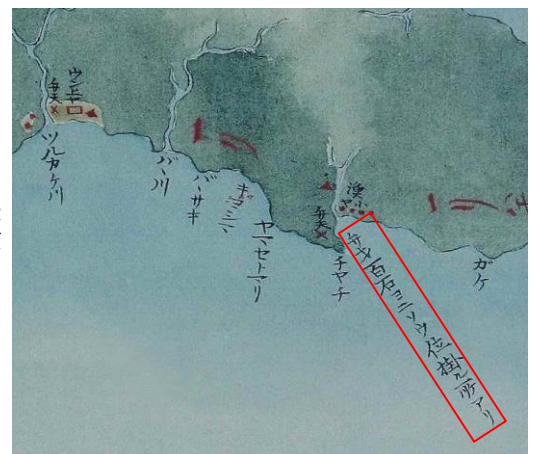
上記の錨とともに回収され、2020年に町内在住の枝松寛次氏より寄贈されたものです。稲穂地区の、稲穂ふれあい研修センター歴史民俗資料展示室前に展示しています。

### ●船筆筒

その他、船に搭載されていたと思われる筆筒が上記資料展示室にて公開されています。いかにも頑丈そうな造りで、持ち運びも可能なサイズです。航海での売り上げを貯め込んだ金庫かもしれないですね。船筆筒は防水性と浮くことが条件ですが、一度試してみたいところです。

### ●焼酎徳利

同じく船に乗せられて運ばれてきたであろう品物として焼酎が入っていた徳利があります。中身を消費した後は、空容器として別な液体を入れるなどして再利用されたことでしょう。



西在八ヶ村・久遠・太田・奥尻島略図(写本)



昭和41年(1966)の球浦小学校と赤石小学校児童が合同で札幌へ修学旅行に行った際に、函館-札幌間を飛行機にて旅行した記念の写真です。当時、飛行機を利用した修学旅行は認められていなかったもので、理由は判明しませんが、特例的に認めた初めての飛行機利用だった可能性があります。就航機はコンペアCV240で、日本国内航空「JA5069 土佐」です。同機は1966年4月28日に抹消登録されており、退役直前の様子ようです。初めて空を飛んだであろう児童たち、さぞかし驚き、楽しい思い出になったことでしょう。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

北海道から日本の近代が見える 山家 勝

見方を変えれば、北海道開拓とは、先住民からの収奪の結果でもあった。外国に対しては、アイヌを先住民として彼らの居住地は日本の領土であると主張し、一方でその先住民を無視し、無主の地として北海道を帝国に組み込んでしまう。この大いなる矛盾を堂々と通す歴史的経緯は破廉恥極まりないものであろう。征服者に対する筆致はととても厳しい。



奥尻のつり 新春号



年明け早々に、北海道でのホッケの群れを水中カメラで撮影した映像がテレビでやっていました。番組では場所を明言していませんでしたが、ホッケ柱が撮影されたのは奥尻島の東海岸で、昨年4~5月にかけて取材が行われていました。1月中旬、急にマイカが獲れたとかで、数日漁り火が見えていました。漁期終了も間近です。さて、奥尻港内では、昨秋からサクラマスの養殖が始まりました。生けすの中で育てているのですが、6月頃には出荷できるサイズに成長するようです。味が気になりますね。一方、陸のアングラからは吉報は聞こえてきませんので、天然物は岸寄りしていないようで残念です。エサ釣りでは奥尻港でホッケ釣りをする姿が見られました。春のホッケ本番が楽しみです。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第2回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号  
 いくなたらのな軟手た子りであらあ真行たか早れ加へ  
 。、くが、だからを。位そ、っ、と赤っ。りくな限此  
 ー油、傷かっか斬へだう水と親思にたそにスいしの  
 と薬母茶にらいたるあがだを切指いならう、キーな茶  
 言をさ碗水仕がのとの、っかれと乍っ、し急しい碗  
 っつんにを方、だは位深たけて人らたふてい滑思との  
 たけに血かなへな私のさ傷てるさ急のき、でりい手傷  
 。て見がけい斬ーのかはの見よしいでんふそに乍がは  
 しせつくーと手け何長たう指で、のきれ行ら切新し  
 ばたく茶としてつもたでさらに、不端んをき、れし  
 っりらの碗思してくよ茶もは、見間手思のを洗たそるい  
 づな、でをいまくっ碗なニやえがを議方取いれから  
 くさー仕拭乍っ情ぼでかセった、見だがり終ばでもら  
 早方い たけど、っばのさたな、にえっも知、

きれのまのんしけ導は教催  
 たかがつスにた、者五室の一  
 いらきてキし。メか〇を行月二  
 ももっ手した冬キら名開事二十  
 の大か弁場い場メ熱ほ催と十三  
 で切け当はものキ心どして三日  
 すにでで、のス上ながまで日、  
 。管す造愛でポ達指集し、  
 理のり好すし導またス町教  
 しで始者ねツてをり。キ教  
 て、めが。もい受、当委  
 いこた集町盛ま 指日場主

スキー教室盛況に



生けすの中で育てます！

がドれ殖にくに均たすが〇生  
 期としてはなし三一。〇〇け昨  
 待しい全つて〇六体最生〇す年  
 さてま国て本〇〇が初育匹で十  
 れ確す各い州〇〇、八はの養月  
 ま立が地まにグゲー〇順二殖から  
 すし、です出ララ月〇調ジをら  
 。て奥盛。荷ムム初グのマ開奥  
 い尻んマすまで頭ラよス始尻  
 くづに入るで、にムうでし港  
 こら行のこ大六はだですた内  
 とんわ養とき月平つ 一の

マスはマスマス成育中

考ばるにかはのばさがしし  
 えなうら何が忘れで、コ  
 こい柔振人もで基るす。妙、  
 と。せな舞た化よ対申喉慣じ  
 悩ん思いちしう。策し元れ、こ  
 むね考、もて。にま過、と目  
 こと。を対臨いウ立すぎ油の  
 ずたで応まる返、ばがりり  
 はねき変すするし熱出返

新米之記録(編集後記)

でかま虫あるメも多りた達も  
 外くすがりとム疲くで。しち年  
 を春が多まいシれ。寒しよ末  
 眺が、かすうがた毎ま気海く寒  
 めまどつ。話多この朝と団はち波  
 るちうた昨をいとのもも荒よに  
 今日かよ秋聞とで雪つ行れく始  
 日うしうはい雪しかたつて低  
 こしらなたたがよき雪たお気  
 のい。氣しこ多うでのりり圧  
 真氣とがかとく。町日來まが年  
 分にしにが降カ民もたし発

今冬は雪が多いですね...



日本近距離航空始発便のカバー